（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0970101960		
法人名	株式会社うつのみやファミリー		
事業所名	グループホームうつのみやファミリー		
所在地	栃木県宇都宮市岩曽町441－2　電話番号：028－689－3021		
自己評価作成日	令和　3年　1月23日	評価結果市町村受理日	令和　3年　3月16日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県　宇都宮市　大和　2－12－27　小牧ビル		
訪問調査日	令和　3年　2月20日	評価確定（合意）日	令和　3年　3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切に、入居者一人ひとりのペースで過ごして頂けるように支援しています。入居以前の生活や趣味・趣向を生かして、家事作業や余暇時間を、その人らしく過ごせるよう支援しています。それぞれの生活歴を把握して、コミュニケーションに活かしています。ご近所一地域の皆さんと顔なじみの関係をつくり、認知症ケアへの支援と理解を深めて頂くよう心がけています。医療機関との連携をはかり、ご利用者の心身の健康に気を配り、通院、入退院の対応、看取り支援等も状況に応じて行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成14年開設の2階建て2ユニットのグループホームです。笑顔と受容の気持ちで利用者と接し、昔話に真剣に耳を傾けるなど、絆作りを大切にして活き活きした暮しの支援に取組んでいる。例年は地区体育祭、文化祭などの行事に参加も継続し交流を深めている。北高文化祭に参加したり、事業所の納涼祭に来訪した高校生との会話は刺激を受けている。プロのバイオリンや大正琴演奏などの他に「蕎麦打ち」ボランティアは定例行事になっている。運営推進会議は利用者、家族、地域包括、自治会長、民生委員、駐在所員が委員で定期開催している。職員に実施した「虐待についてのアンケート」結果の紹介では意見交換をしている。協力医の月2回の訪問診療と歯科医の月2回の訪問診療による医療支援は家族の安心と信頼に繋がっている。過去に家族の要望を受け看取りを経験しており、現在もほとんどの利用者、家族からの看取り希望も多く寄り添った対応に努めている。地域と共に管理者、職員が一体となり利用者、家族の信頼と安心に繋がる支援に取組んでいる事業所です。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）（1階ユニット）※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（1階ユニット） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6項目の行動指針を基に地域、家族との連携を心がけている。また、職員間の理念の共有に努め、実践につなげている。	毎月のホーム会議で支援内容を振返り6項目の行動指針を確認することで実践に繋げている。笑顔と受容の気持ちで利用者と接し、昔話に真剣に耳を傾けるなど、絆作りを大切にして活き活きした暮しの支援に取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所付き合いを大切にし、利用者との散歩などの折に挨拶するなど、顔見知りを増やすよう心がけている。自治会にも加入しており、地域での役割を担い、協力体制を整えている。	散歩の途中近所の方と挨拶を交わしたり、柚子を頂いたりしている。例年は地区体育祭、文化祭などの行事に参加も継続し交流を深めている。北高文化祭に参加したり、事業所の納涼祭に来訪した高校生との会話は刺激を受けている。プロのバイオリンや大正琴演奏などの他に「蕎麦打ち」のボランティアは定例行事になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、運営推進会議等を通じて、認知症の方への理解や支援への協力を働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型ウイルスの感染防止のため、利用者・家族の参加は見合わせた。地域包括、自治会、民生委員、交番の皆さんに参加して頂いた。緊急事態宣言中は文書で回覧した。頂いたご意見は、サービスの向上に役立てている。	利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括、駐在所員が委員で定期開催している。活動報告の後意見交換をしている。近所から頂いた柚子の利用方法や「しもつかれ」の作り方などのアドバイス、また職員に実施した「虐待についてのアンケート」結果の紹介に対して意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携、また市の高齢対策課など担当部署に、運営に関する相談を行うなどしている。	地域包括が運営推進会議を通して事業所の状況を把握している。管理者は市から地区の福祉協力員を委嘱され計画した済生会宇都宮病院乳児院のクリスマス会に参加している。新型コロナ禍における運営推進会議開催に関し相談し対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠の開放など、広義での身体拘束の意味を理解し、拘束＝虐待のないケアを行うようスタッフに周知し実践している。	車椅子利用4名、杖利用2名、歩行器利用2名の利用者には見守りや寄添いなど、それぞれに対応したケアに取組んでいる。1名の帰宅願望利用者には家族の伝言を活用したり、時には一緒に外に出たり、徘徊をする利用者には、それとなく寄添うなどして気分転換を図るなどの身体拘束をしないケアに取組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束を含む虐待防止のために、研修やアンケートを実施するなどしている。		

自己	外部	項　目	自己評価（1階ユニット） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議の場での研修など、定期的に学ぶ機会を設け、また必要に応じて職員の意識が高まるよう指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の充分な説明を行うとともに、利用者・家族の不安や疑問にもしっかり対応するように努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に新型ウイルス感染が拡大するなか、ご家族への連絡（電話等）をこまめに行い、不安や要望に対応するようにつとめている。運営推進会議への家族の参加は見合わせている。	家族訪問時や電話した機会に暮らし振りなど伝え積極的に聴く事を心掛けている。運営に関する具体的な意見、要望はほとんど聞かれない。利用者との会話からコーヒーが飲みたいなどの希望に対応したり、好きだった「しもつかれ」を家族が差入れるなどの事例もある。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の意見が反映しやすいように、会議等で意見を出してもらう場を設けるなどしている。	毎月のホーム会議で意見、要望を聴く機会の他、管理者は現場で直接聞くよう心掛けている。全居室に加湿器の設置を家族に依頼し実現している。職員の入退職により行事、食材担当など各委員会の変更に職員意見を取り入れている。新型コロナ禍の外出自粛によりバレンタインデー、母の日、父の日など記念日のおやつ作りなどに趣向を凝らしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材確保、職場環境、労働条件の改善に取り組んでいるが、依然厳しい状況。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修の受講、職員研修など、職員のスキルアップの機会を確保しているが、人員不足のために、積極的な人材育成は行えていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は、研修などの機会に限定されてしまう。		

自己	外部	項　目	自己評価（1階ユニット） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と連携し、本人の希望に沿うようなケアにつとめ、安心して生活して頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	充分な聞き取りを行い、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族が何を必要とされているかを見極める能力が必要となる。アセスメントを身に付けることや、他のサービス等の情報収集にも努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアする側の一方的な働きかけにとどまらず、人生の先輩であるご利用者の体験を傾聴する、時には相談するなど双方向の交流を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のお元気な姿や声を聞いて頂くなど、制約ある中でできる限り、本人と家族との交流の機会を作ってきた。家族との連携をさらに強めていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、盆正月の帰宅、馴染みの美容院への外出支援等、行ってきた。現在は、新型コロナウィルス感染拡大のため、面会や外出ができない状況続いている。電話でのやり取りなど、工夫して支援している。	知人の訪問があった時は歓談の支援をしている。地区体育際、文化祭の参加は知人、友人と会う機会になっている。定期的に行く馴染みの美容院に送迎の支援をしている。家族の訪問時に協力を得て外出、外食の他、盆正月に帰宅、外泊など利用者は数名いる。体操教室やボランティアなど1階と2階合同で行うことが多く、馴染みになった利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流できる機会を設けるように努めている。ユニット内、ユニット間の利用者の行き来を支援し交流の機会を設けている。年始めには書初めなども行なった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご様子を伺い、施設・医療機関等を訪問すりよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（1階ユニット） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り一人ひとりの希望に沿うケアとなるよう、日常の生活のリズムや好きなことなどを把握するように努めている。	利用者との会話を通して、したい事を聴き出すよう努めている。会話による意思表示が難しい利用者には表情や仕草から把握に努めている。家族からの情報で養命酒や栄養補強のミルクを飲んでいる人、鉢植の花への水やりの趣味などの支援に取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らし方、生活環境を把握し、これまでの生活を感じられるような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースカンファレンス（・アセスメント）等を通じて、定期的に情報共有する機会を設け、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者本位の計画を立て、充分な情報交換の基介護計画を作成している。	1年毎の見直しを基本にしている。目標は長期を1年、短期を半年にしている。毎月のケア会議、支援経過記録、個別サービス実施記録などを基に、半年毎にモニタリングを行い、現状に即した計画になるよう努めている。サービス担当者会議は家族来訪時を基本にしているが電話や郵送による承認が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、職員間で情報共有をはかり、実践や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々のニーズに対応した柔軟な支援を心がけている。看取り支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウィルス感染防止のため、地域の催しへの参加はできない状況だが、このような制約下、散歩やゆずをもらいに等、ご近所の皆さんとの交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（1階ユニット） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医（内科と歯科の訪問診療）と事業所との関係を築きながら、本人、家族の希望に沿った適切な受診支援となるよう尽力している。時には通院支援（無償）も行っている。	1名以外の17名は月2回訪問診療がある「協力医」をかかりつけ医にしている。また全利用者が月2回歯科医の訪問診療を受け口腔ケア措置を、また職員も口腔ケアの指導を受けている。他科の通院支援もしており、適切な医療支援は家族の安心と信頼に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に備えた情報提供の書類を作成し、適切な診療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者（ソーシャルワーカーも含め）との情報交換や相談、家族とのこまめな連絡によって、安心して治療を行えるよう支援している。入退院支援を行い、退院後の支援についても、医療機関からの引継ぎを職員間で共有し対応するようよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ニーズに対応して、ターミナルケアにも取り組んでいる。	過去に本人、家族の要望を受け看取り経験をしている。利用開始時に「終末期の看取り等指針」に基づき看取り可能な旨伝えている。現在もほとんどの利用者、家族からの看取り希望も多く寄り添った対応に努めている。食事が摂れなくなったなどの状態を重度化と判断し対応について家族、主治医、職員など関係者と相談し方針を決め支援に取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行っているが、今後も実践力の向上に向けて、努力が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時（火災等）に対応できるよう、定期的に訓練を実施している。	令和元年10月は消防署立会のもと夜間想定の訓練を、令和2年9月は日中想定の避難訓練を実施している。10月の訓練では消防からのアドバイスに基づき2階の利用者は滑り台使用による避難訓練の実施をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価（1階ユニット） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を傷つけないよう丁寧な言葉かけや対応を心がけている。会議（・研修）の場等も活用して、職員の意識の向上に努めている。	利用者は両親、祖父母に近い年齢でもあり、人生の先輩として敬う気持ちで日常の支援に努めている。笑顔で利用者に話題を合わせ、丁寧で判り易い言葉での話し掛けに努めており、若い時の話や仕事の話なども興味深く聴くように心掛けている。排泄の失敗時は他の利用者に気付かれない様、さり気ない対応に努めプライバシーの配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に思いや願いを表せるような、支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで日々の生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容（・カラーリング）のサービスを利用したり、行きつけの美容室への同行支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の希望の献立を考え、買い出しから職員で行う等している。 利用者と一緒に準備や片付けを行い、食事も共にしている。 ※新型コロナウィルスの感染防止のため、現在は食事時の職員同席は行っていない。	朝、夕は主食のみを作り、副食は調理済みの食材を湯煎している。昼食は業者から食材調達し職員が調理している。誕生日には、本人希望の献立を職員が考え食材調達から調理まで行っている。おせち、七草粥、恵方巻、「しもつかれ」など行事食や季節食とボランティアの「蕎麦打ち」などの家庭的の食生活は楽しみになっている。おやつ作りも多くバレンタインデーのチョコ、クリスマスケーキなど利用者と一緒に作る喜びと食べる幸せを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の様子を見ながら、声かけや介助などの支援を行っている。また、ペースト食への切り替えなども適宜行っている。水分摂取についても同様に、声かけや介助の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもとに、毎食後の口腔ケアを実施している。口腔状態や個々の力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（1階ユニット） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を十分に把握し、個々の状態に合わせた支援を行っている。	現在8名が昼夜とも自立排泄している。他は排泄パターン活用の時間誘導と意思表示で誘導によるトイレ排泄支援をしている。夜間は睡眠を優先にし、センサーも使用して、自立排泄以外に起きてきた利用者のトイレ誘導をし、排泄支援をしている。ポータブルトイレ利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促す、牛乳など乳製品の利用、体操など、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望（回数や時間帯、入浴方法）に沿うよう支援している。	入浴は、週2回の午後を基本にしているが、回数、温度など利用者の希望を尊重した支援に取組んでいる。入浴を嫌がる利用者や男性職員の介助を嫌がる利用者はいない。多くの利用者は洗髪や背中洗いなどの介助を受けている。柚子湯や菖蒲湯の季節湯、入浴剤で温泉気分など楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムを把握し、状況に応じて休息を促している。また、良眠できるよう、昼夜逆転に注意した支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録のファイルに処方薬情報を添付し、用法・用量・副作用等の情報を把握に努め、服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望にそった支援を心がけ、日常生活のリズムや好みなどの把握、職員間の情報共有に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウィルス感染防止のために、外出はほとんどできない状況が続いている。そのなかでも、戸外に出て、庭の花を眺めたり、近くの川まで散歩に出かけるなどの取り組みを行っている。	散歩好きな利用者もおり、出来るだけ多く散歩の支援に心掛けている。初詣、だるま市、さつき祭りなど年間行事外出やロマンチック村などの外出で楽しい時間を過ごしている。家族の協力による外出、外食の他外泊する利用者の支援にも取り組んでいる。新型コロナ禍で外出も、ままならないが感染対策し周辺の花を眺めたり、近くの小川まで散歩している。	

自己	外部	項　目	自己評価（1階ユニット） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があった場合、ご家族との話し合いの上で、所持して頂いている（使用については、現在はない）。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気作りを心がけている。季節を感じてもらえるように、生花を飾るなどの工夫をしている。	リビング、ダイニングには近くの生花店と契約し定期的に季節の花を飾っている。家族から寄贈の雛人形を飾ったり、近所から頂いた竹での七夕やクリスマスツリーなどは利用者と一緒に飾りつけをしている。ススキなどの15夜飾りは季節感を演出し、家庭での思い出にも繋がっている。清掃消毒も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席、ソファが配置されている。食事はテーブル席でされるが、それ以外の時間は、居室やソファなど、思い思いの場所で自由に過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の希望に合わせて、使い慣れたもの、好みのものを持参して頂き、居心地の良いお部屋で過ごせるように支援している。	全室洋間で縦型の物入れが設置され、窓側に洗面台の取付けられた50cm幅の棚が取付けられ小物置きなどに使用している。ベット、家具など必要なものは持込みを基本にしている。家族の写真や小さな仏壇、テレビを持込み思い思いに居心地良い部屋造りをしている。全室加湿器設置と新しいエアコンに取り換えている。掃除は毎日職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境作り 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前表示や目印の花をつける、トイレの表示を貼る等工夫している。居室に施錠する方もいるが、自主性に委ねている。		